



米国穀物レポート コーン・大豆

2016年10月13日

TOCOM認定商品アナリスト(石油、オプション)

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

10月発表USDA需給報告

概要と分析

出所: 米国農務省



アナリスト証明

本レポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本レポートに示した意見は私(玉川博一)の見方を正確に反映しています。本レポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性、信頼性に関する責任を負いません。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っていますのでご留意下さい。執筆者の報酬は、このレポートの推奨や見方によって、現在、過去、未来にわたって一切影響を受けません。また当社、岡安企業グループが行ったいかなる投資案件とも本レポートとは関係ありません。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。

とうもろこし (Corn)

10/12 USDA発表

| | | |
|---------------------------|---|-----------------------------|
| 2016／17年度米国コーン ()内は前月見通し | | |
| 作付面積 | : | 9449万エーカー (9414.8万エーカー) |
| 収穫面積 | : | 8683.6万エーカー (8655万エーカー) |
| 単 収 | : | 173.4Bu (174.4Bu) |
| 期首在庫 | : | 17億3800万Bu (17億1600万Bu) |
| 生 産 | : | 150億5700万Bu (150億9300万Bu) |
| 輸 入 | : | 5000万Bu (5000万Bu) |
| 供給合計 | : | 168億4500万Bu (168億5900万Bu) |
| 飼料、その他 | : | 56億5000万Bu (56億5000万Bu) |
| 食品・種・工業用 | : | 66億5000万Bu (66億5000万Bu) |
| 内エタノール | : | 52億7500万Bu (52億7500万Bu) |
| 輸 出 | : | 22億2500万Bu 21億7500万Bu) |
| 消費合計 | : | 145億2500万Bu (144億7500万Bu) |
| 期末在庫 | : | 23億2000万Bu (23億8400万Bu) |
| 在庫／消費率 | : | 16.0% (16.5%) |

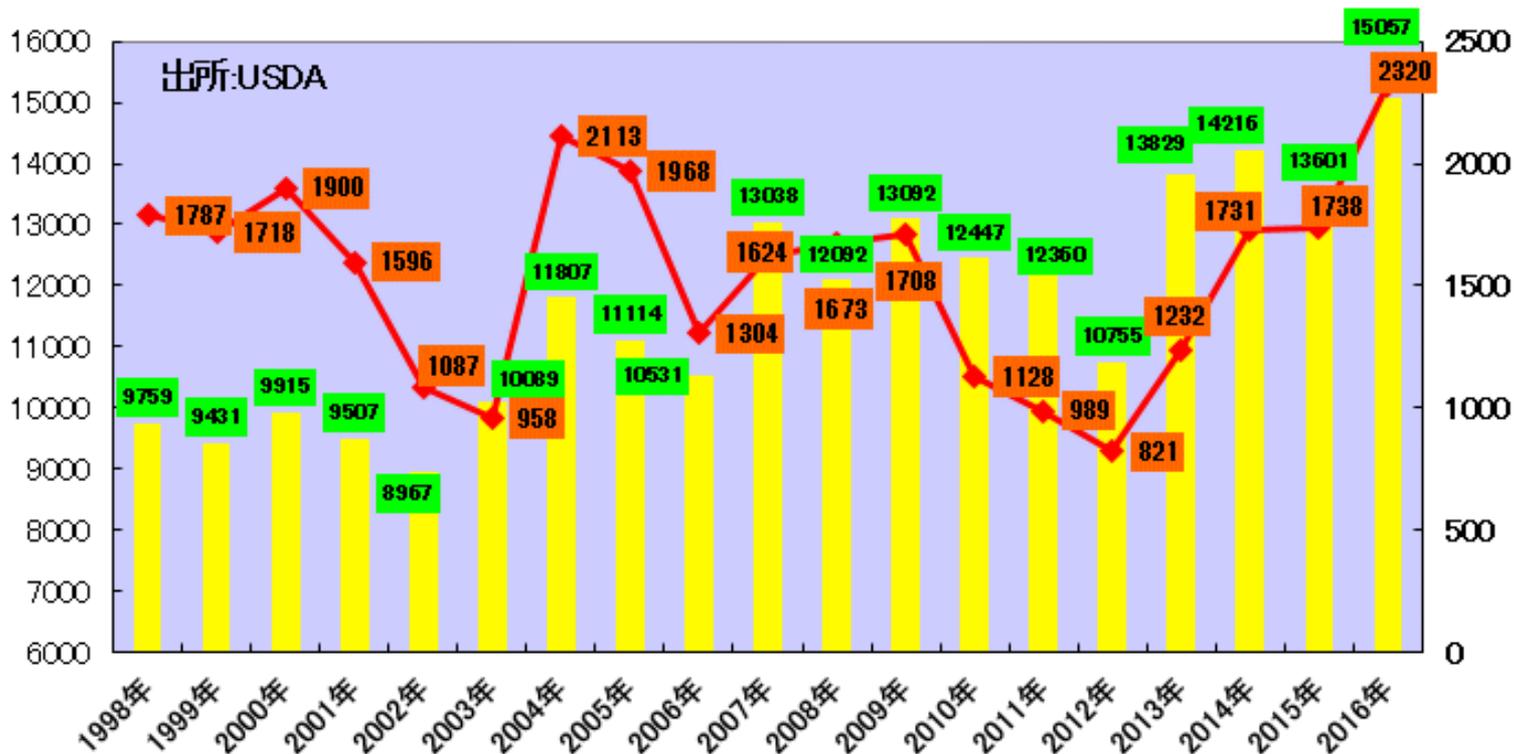
コーンのイールド、生産高、期末在庫は下方修正。
期末在庫は23.2億Buとロイター予想を下回る。

- 旧穀は輸出の下方修正を受けて期末在庫は2200万Buの上方修正の17.38億Buとしました。新穀は、イールド、生産高が前月から下方修正されたものの史上最高の大豊作でイールドが173.4Bu、ロイター予想平均173.5Buを下回りました。生産高見通しは前月から3600万Buの下方修正の150.57億Buと、ほぼロイター予想平均(150.60億Bu)通りとなりました。
- 新穀輸出は前月から5000万Bu引き上げられ、新穀期末在庫は、23.20億Buと6400万Buの引き下げとなり、ロイター予想平均23.59億Buを下回りました。

新穀期末在庫は下方修正

米国コーン生産高と期末在庫

百万Bu



主要五大生産州イールド、生産高見通し

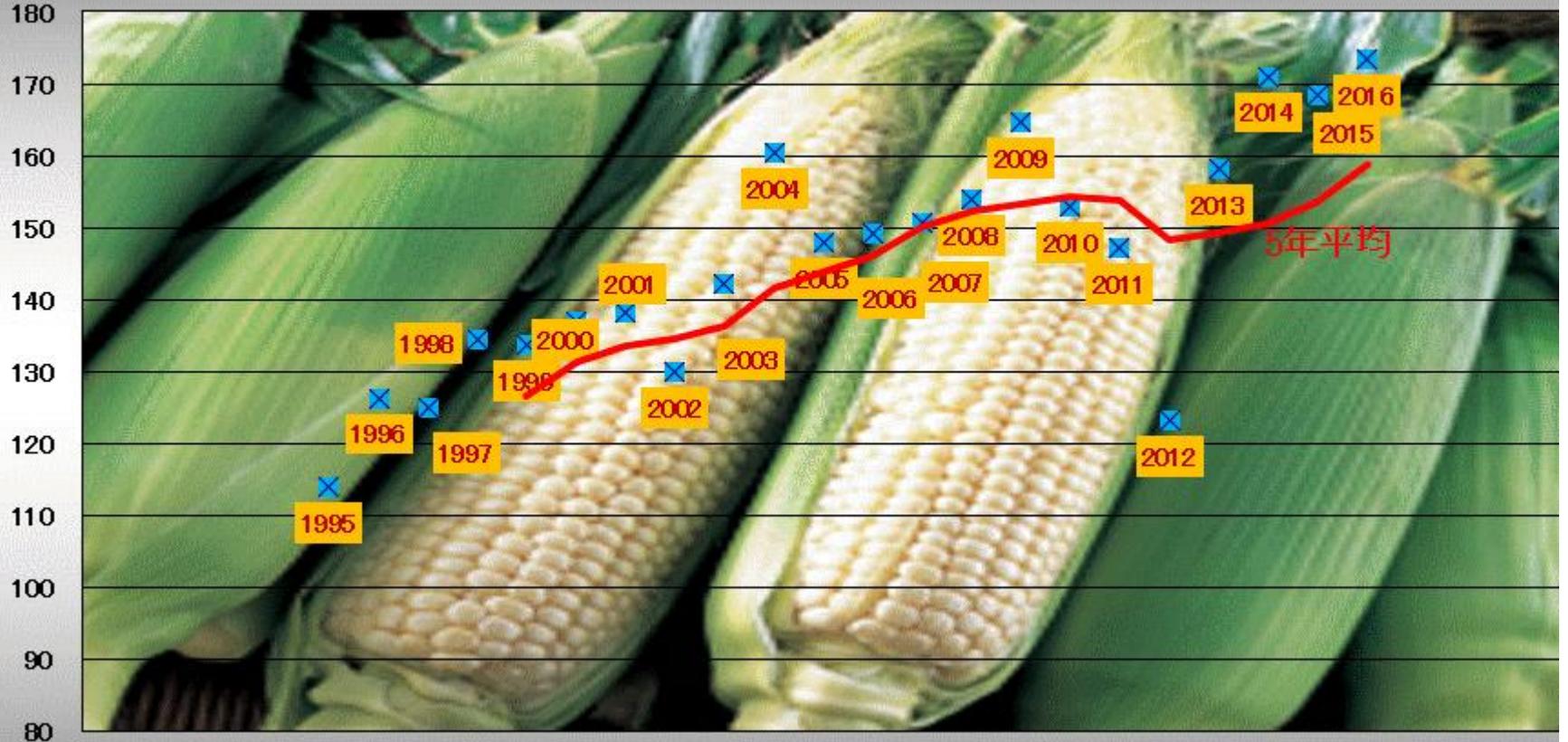
- アイオワ 198Bu(196)、26.73億Bu(26.65)
- イリノイ 202Bu(200)、23.23億Bu(23)
- インディアナ 177Bu(185)、9.57億Bu(10.37)
- ミネソタ 186Bu(184)、14.88億Bu(14.72)
- ネブラスカ 181Bu(184)、17.19億Bu(17.29)

※()内前月、左イールド、右生産高

コーン単収は、下方修正ながら、過去最高の173.4Buの見通し

コーン単収推移過去20年

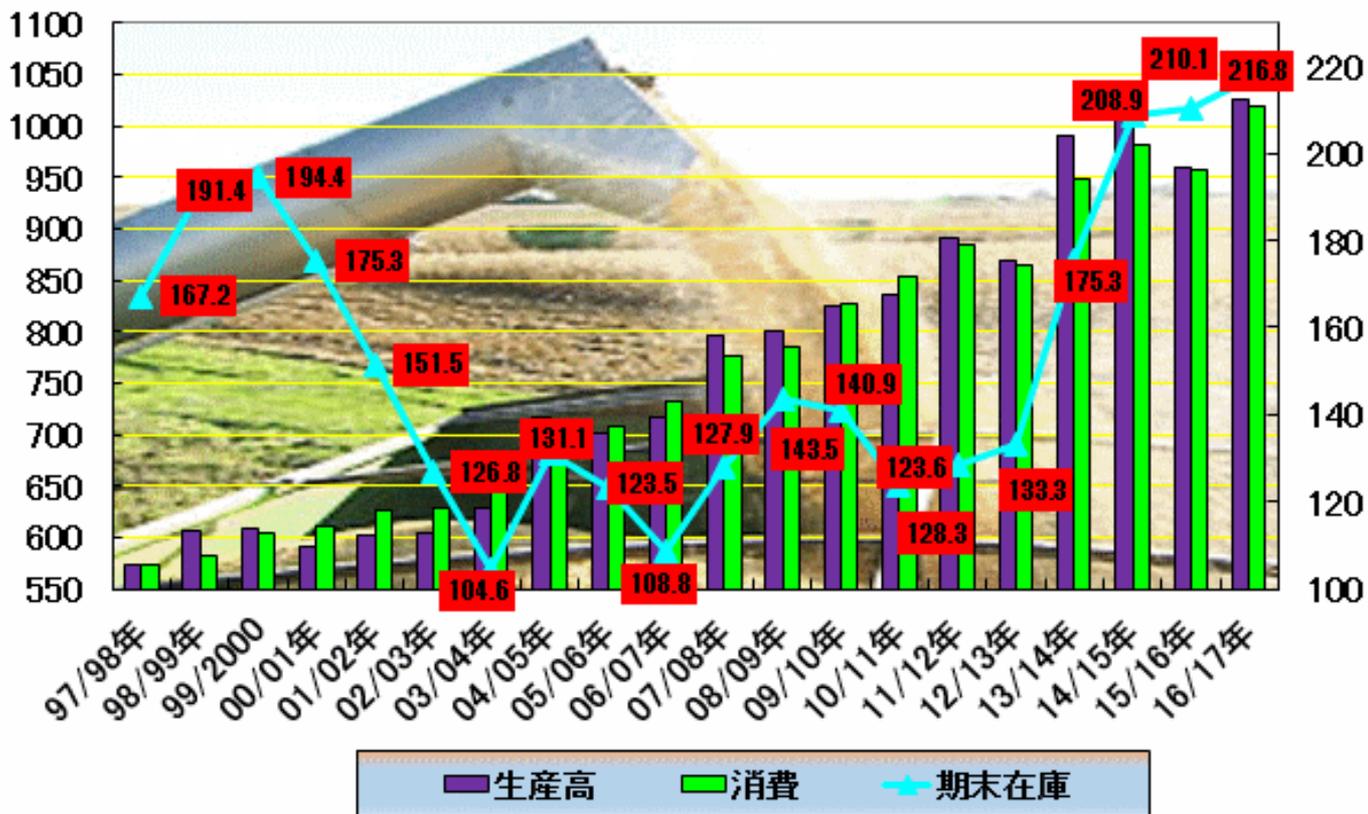
単位Bu/1エーカー



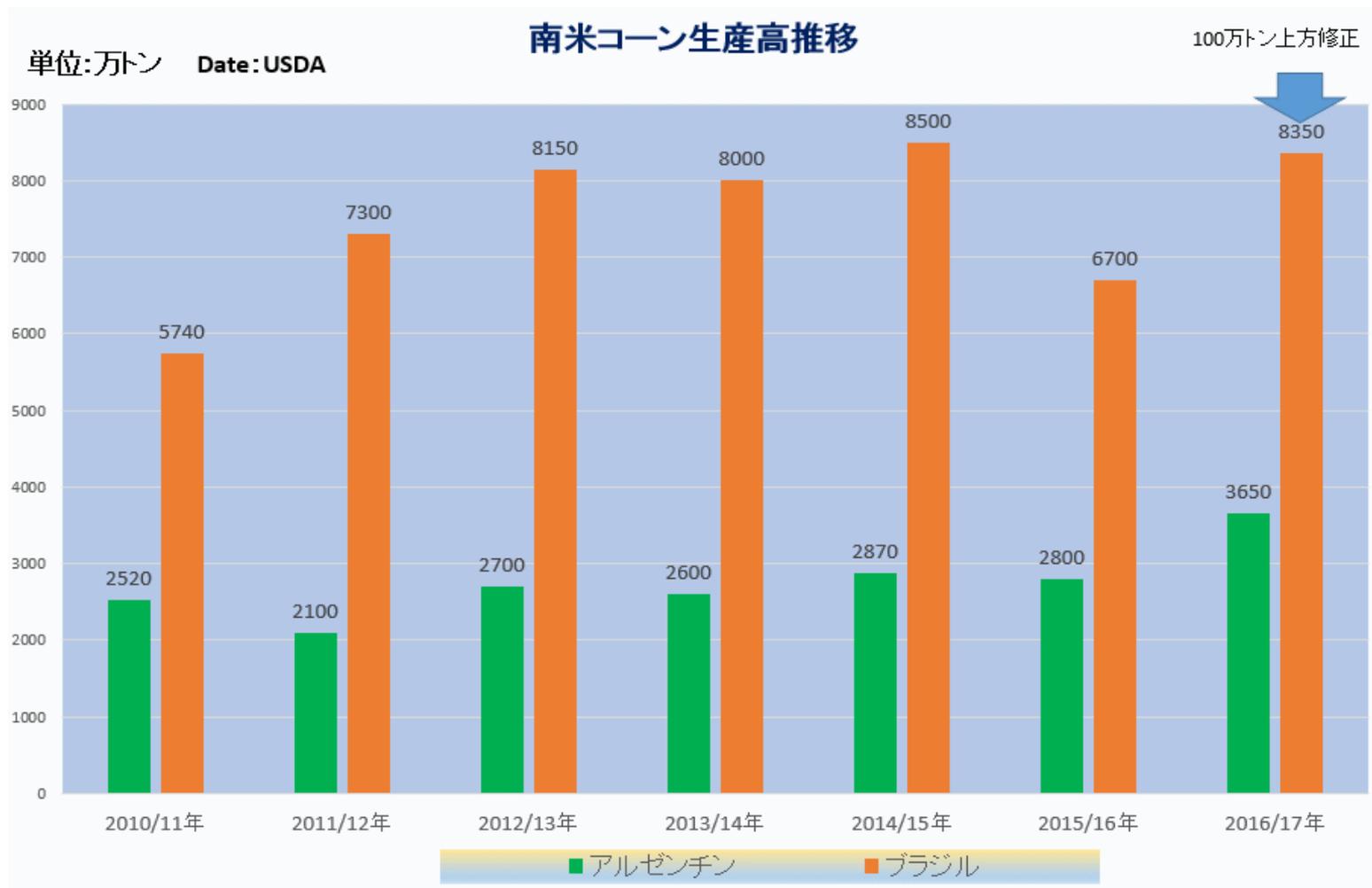
コーン世界需給

世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



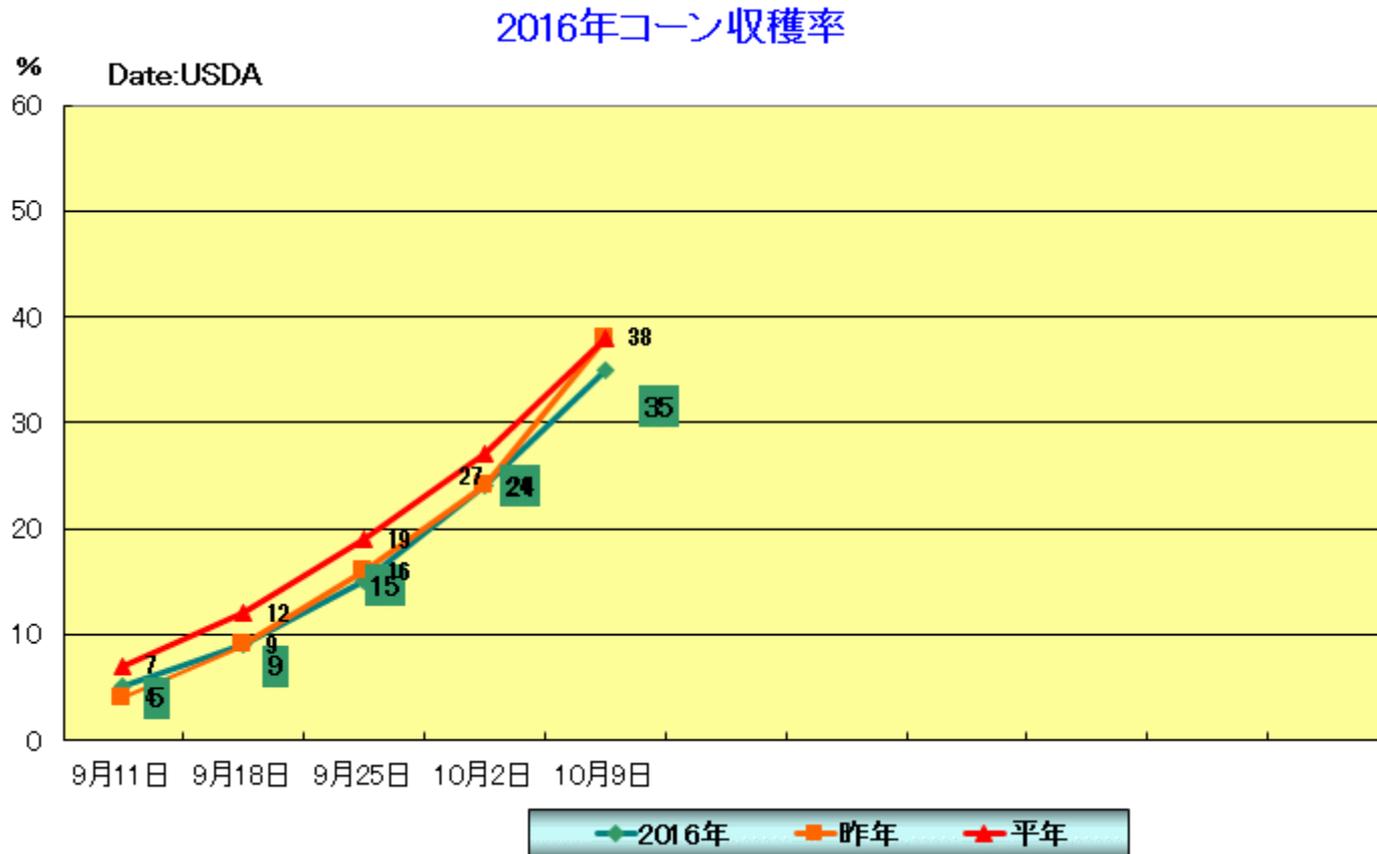
南米コーン生産高推移



世界コーン需給

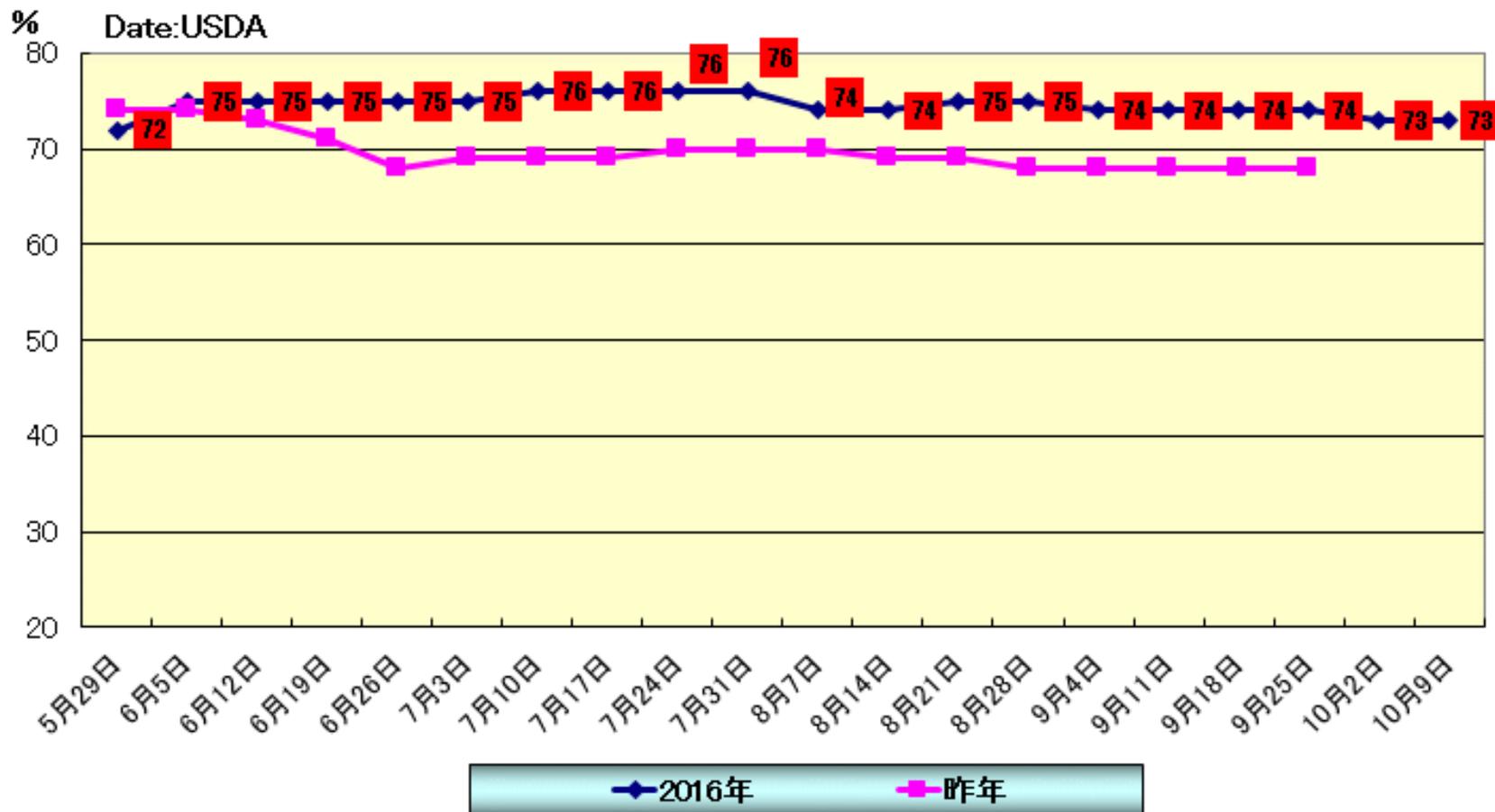
- 2015/16年度世界需給は、世界コーン生産高が9.5914億トンとわずかな上方修正となりました。2015/16年世界コーン期末在庫は、前月からやや引き上げの2.1005億トンとしました。
- 新穀の2016/17年世界コーン生産高は、ブラジル+100万トン(8250→8350万トン)、カナダ+15万トン(1235→1250万トン)引き上げられましたが、欧州が-87万トン(6115→6028万トン)、米国が-90万トン(38338→38248万トン)引き下げられ、10.2569億トンと92万トンの引き下げとなりました。2016/17年世界期末在庫は、2.1681億トンと前月から265万トンの引き下げとなり、ロイター予想平均(2.1832億トン)をやや下回りました。
- 2016/17年輸出高見通しは、南米、ウクライナ、米国とも、こぞって引き上げなりました。

10/9時点コーン収穫35%終了。



10/9現在、作柄状況優+良の比率73% 今年は一度も70%を割ることなく史上最高の大豊作

2016年コーン作柄状況(主要18州)・優+良比率



結論

- 米国、世界とも生産高、期末在庫はやや下方修正され、新穀の米国世界とも期末在庫はロイター予想平均をやや下回りました。ただ米国の大豊作、史上最高水準の生産高見通しは変わらず、作付面積、収穫面積はやや上方修正となり、中立の数字と言えます。豊作は織り込んでいるもののまだ強気にはなりにくいでしょうか。現状の生育ステージは成熟期がほぼ終了、収穫が10/9現在35%終了しています。秋の深まりとともにハーベストプレッシャーが高まり、下値もみ合いが続きそうです。
- 東京コーン先限は、8月以降19000円台の弱持ち合いが続いています。基本的には深追いはせず、19920円にストップをおいて19600円前後で戻り売り、19000円前後は買い戻し、小救いスタンスがベターでしょう。

東京コーン先限日足



大豆 (SoyBean)

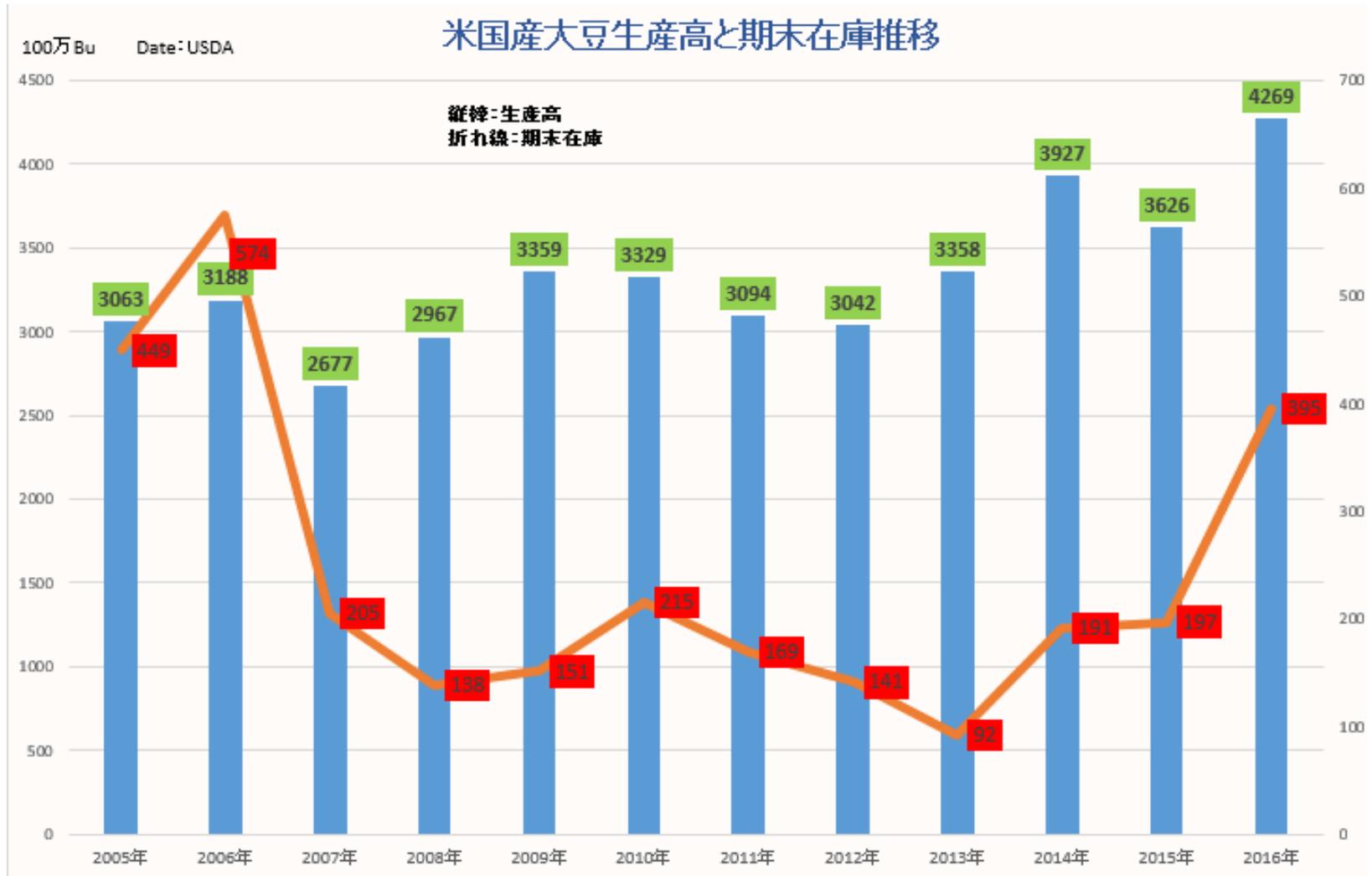


10/12発表USDA大豆需給報告

2016/17年度米国産大豆 ()内前月見通し

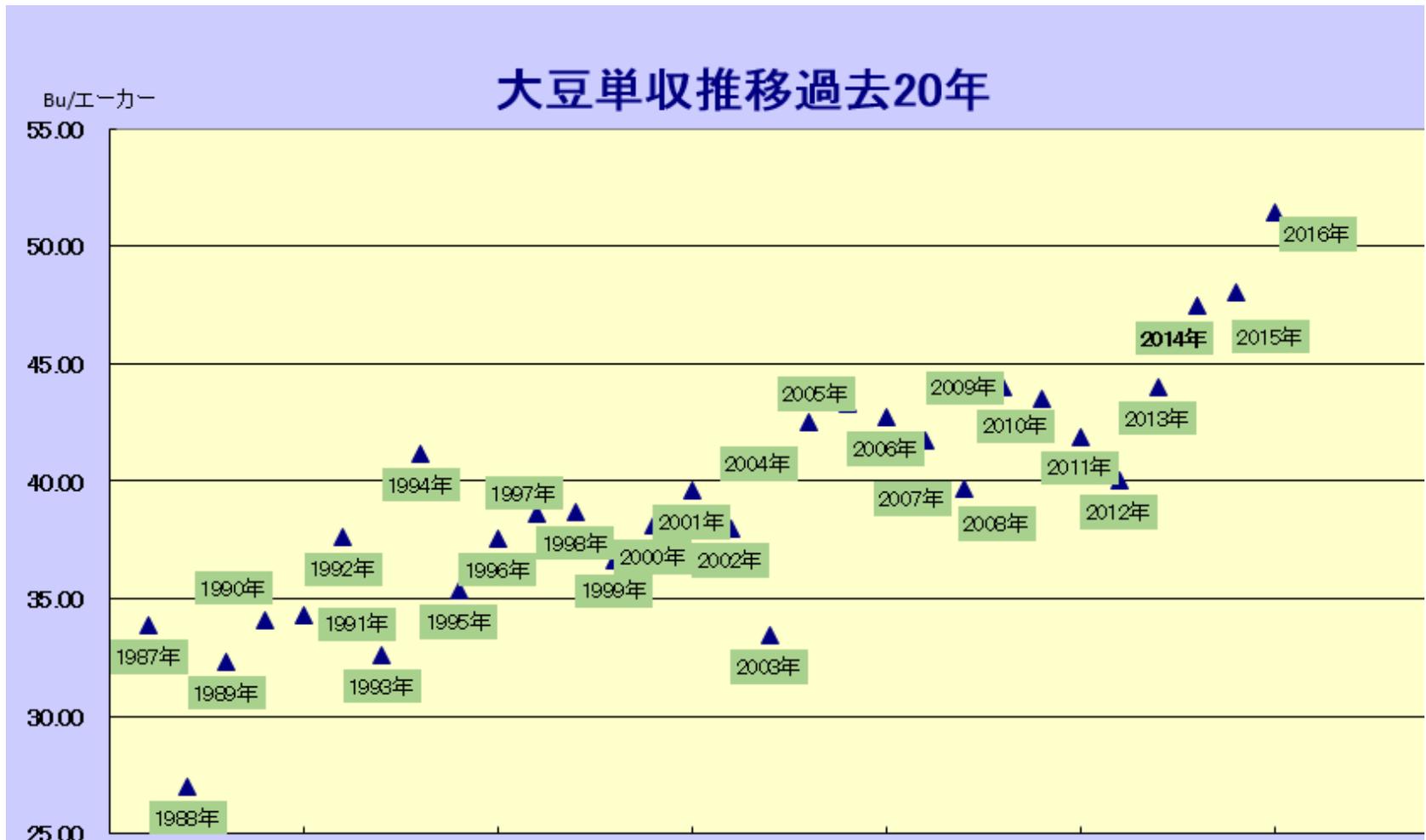
| | | |
|--------|-------------|----------------|
| 作付面積: | 8369.8万エーカー | (8368.8万エーカー) |
| 収穫面積: | 8304.7万エーカー | (8303.7万エーカー) |
| 単収 | : 51.4Bu | (50.6 Bu) |
| 期初在庫: | 1億9700万Bu | (1億9500万Bu) |
| 生産 | :42億6900万Bu | (42億0100万Bu) |
| 輸入 | : 3000万Bu | (3000万Bu) |
| 供給合計: | 44億9600万Bu | (43億2600万Bu) |
| 圧砕 | :19億5000万Bu | (19億5000万Bu) |
| 輸出 | :20億2500万Bu | (19億8500万Bu) |
| 種子その他: | 1億2600万Bu | (1億2600万Bu) |
| 消費合計: | 40億6100万Bu | (40億6100万Bu) |
| 期末在庫: | 3億9500万Bu | (3億6500万Bu) |
| 在庫率 | : 9.6% | (8.9%) |

2015/16年米国期末在庫は、1.97億Buと200万Buの上方修正。2016/17年
期末在庫は3.95億Buと3000万Buの上方修正。



大豆単収推移

2016年は51.4Buと史上最高の50Bu超え、前月から0.8bu引き上げ

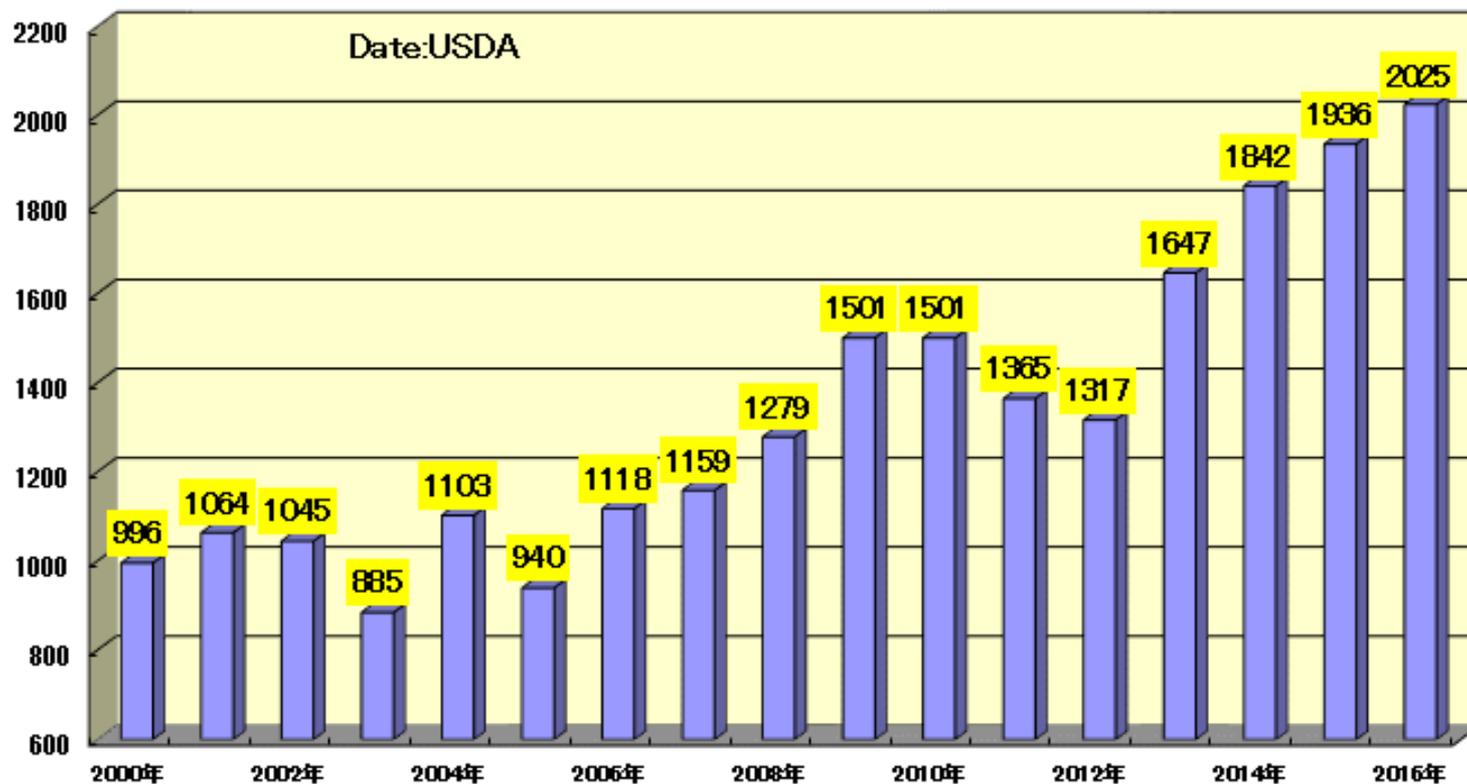


大豆輸出需要推移

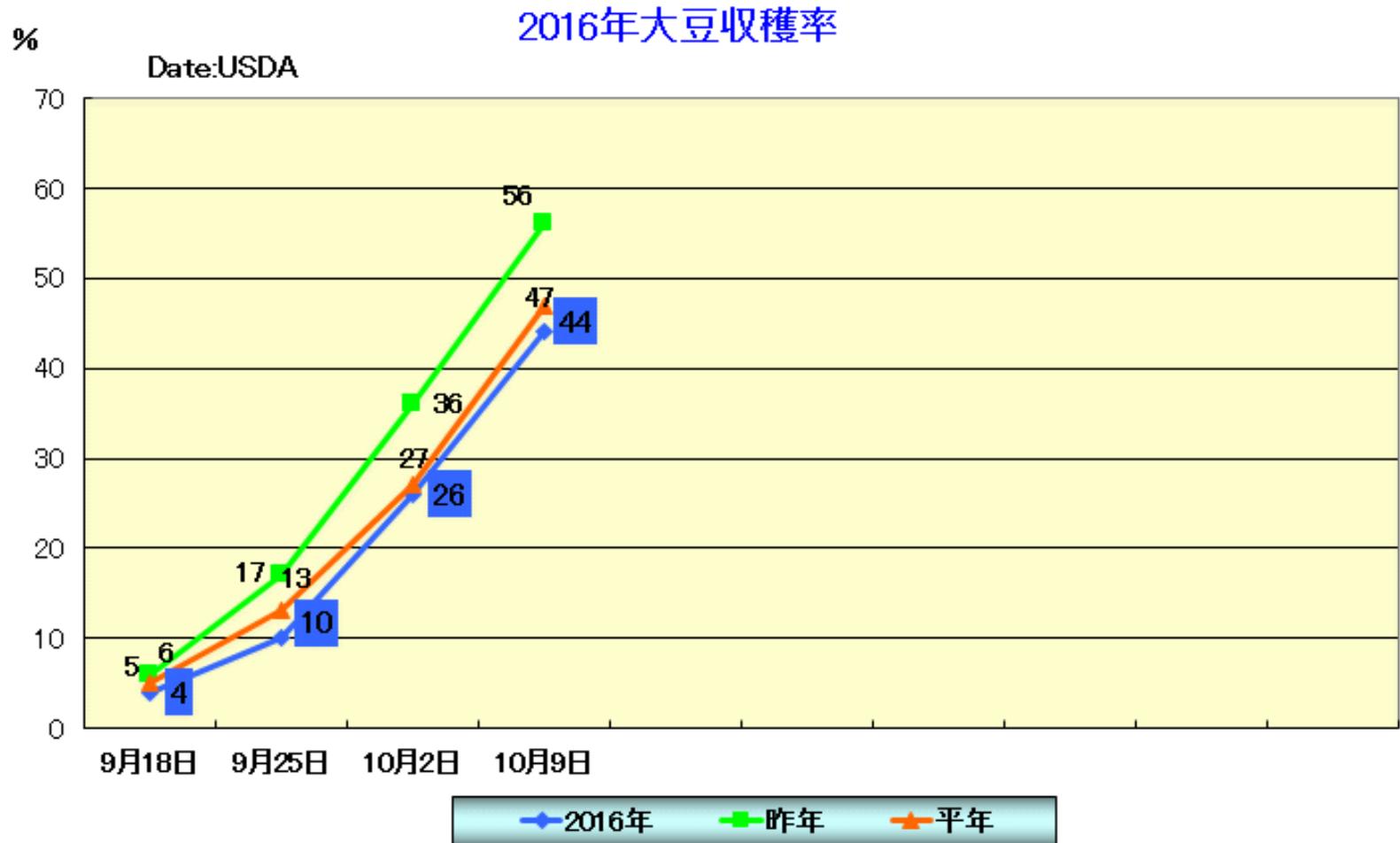
旧穀-400万Bu下方修正、新穀+4000万Buの上方修正

米国産大豆輸出需要

100万Bu

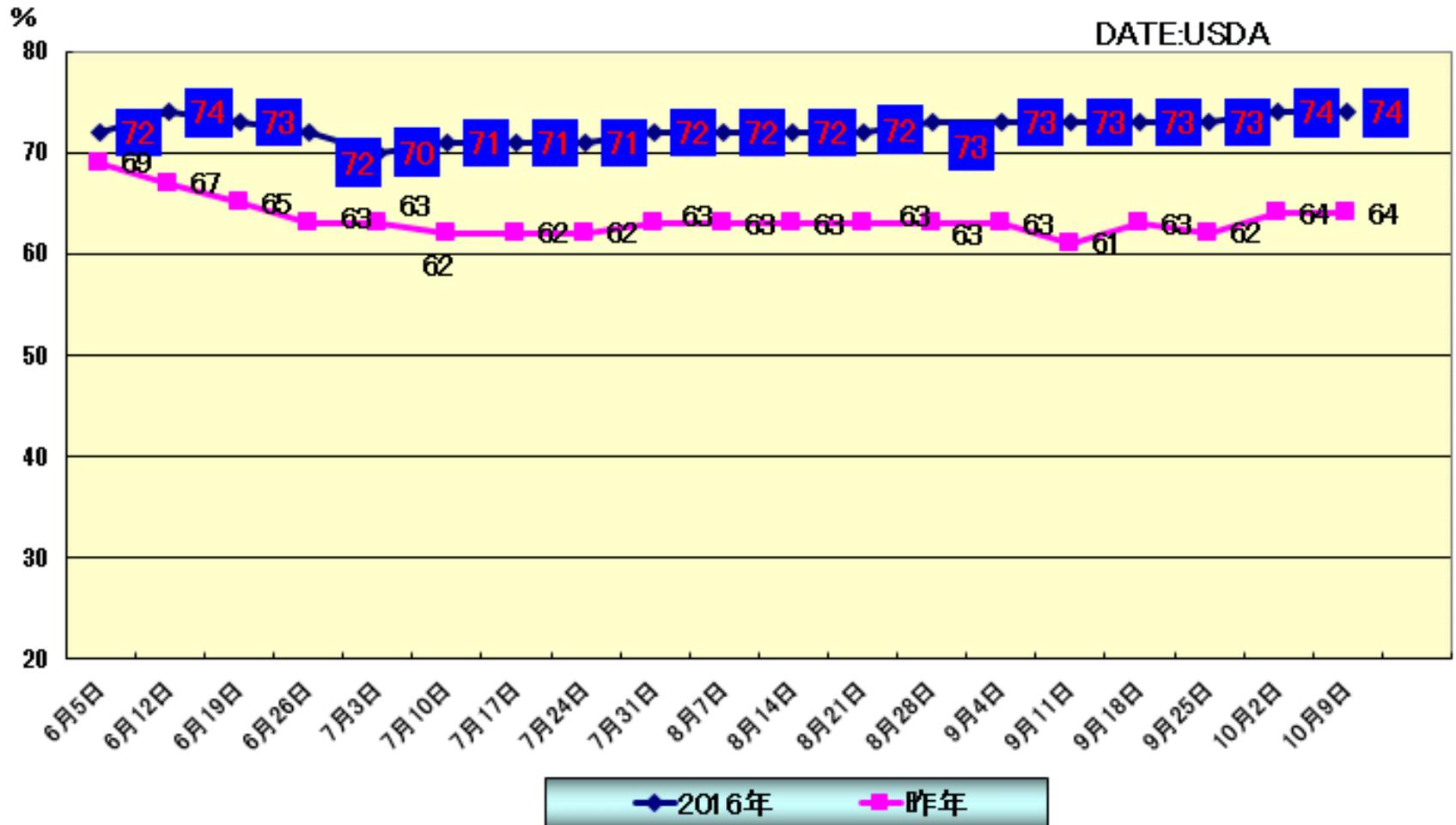


大豆収穫率は10/9現在44%、平年をやや下回る。



大豆作柄状況、良以上74%前年を10%上回る

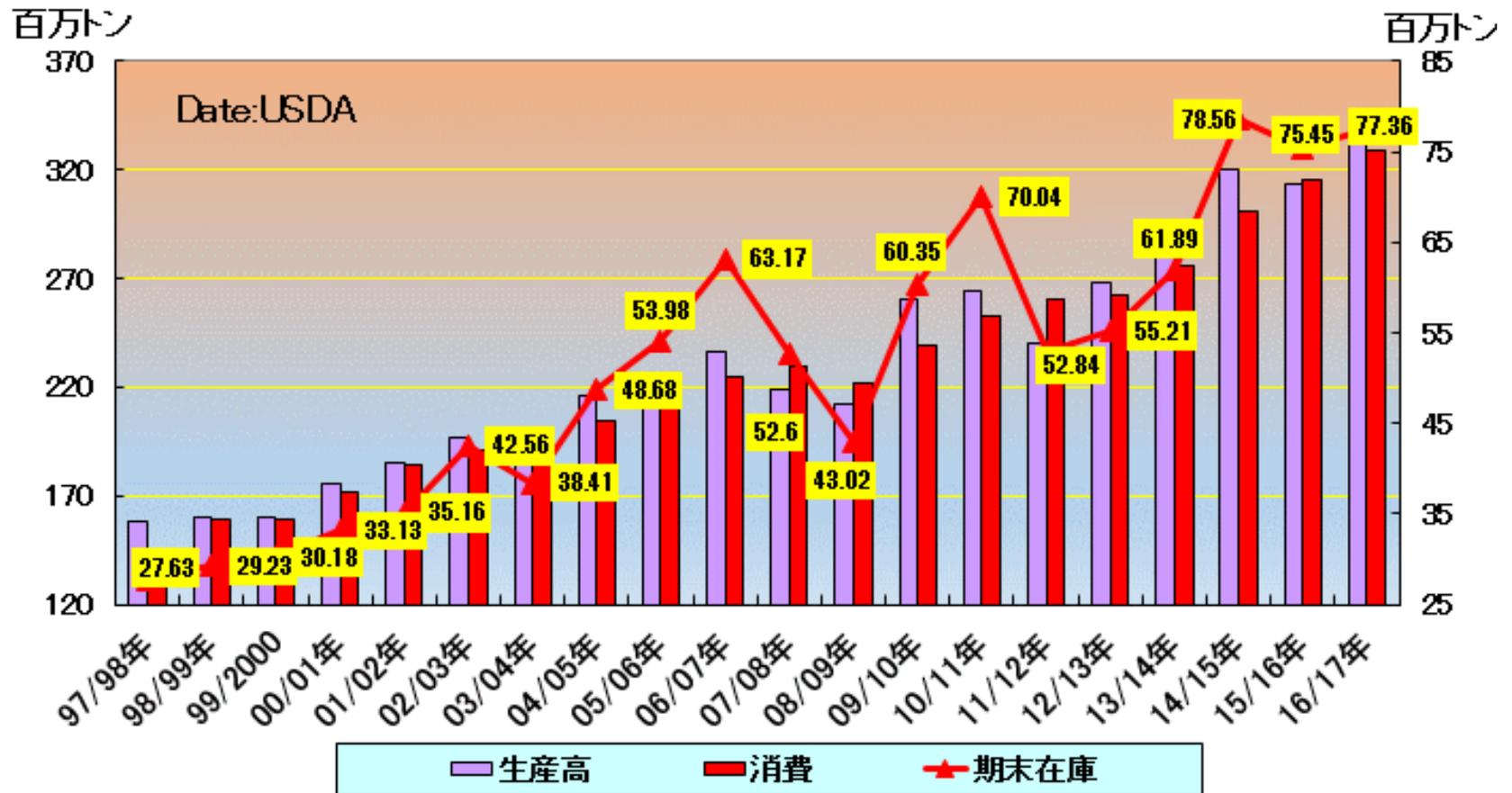
2016年大豆作柄状況・主要18州優+良比率



世界大豆需給推移

2016/17年世界期末在庫7736万トンと、519万トンの上方修正。

世界大豆需給



世界大豆需給

- 2015/16年世界大豆生産高は、3億1301万トンとわずか4万トンの上方修正となりました。2015/16年世界大豆期末在庫は7545万トンと、南米、中国、米国の引け上げを受けて前月から254万トンの引き上げとなりました。
- 新穀の2016/17年世界生産高は、米国+185万トン（11433→11618万トン）、ブラジル+100万トン（10100→10200万トン）の引き上げを受けて3億3322トンと前月から279万トンの上方修正となりました。2016/17年世界大豆期末在庫は、米国が前月から+174万トン（2856→3030万トン）、ブラジルが+187万トン（1660→1847万トン）、中国が+100万トン（1266→1366万トン）のそれぞれ引き上げを受けて前月から519万トン上方修正の7736万トンとし、ロイター予想平均（7328万トン）を大幅に上回りました。

結論

- 旧穀期末在庫が1.97億Buと前月から+200万Bu、新穀期末在庫が+3000万Bu上方修正されました。新穀輸出が20.25億Buと4000万Bu引き上げられたにもかかわらず、イールド、生産高見通しがさらに引き上げられ、期末在庫は引き上げとなりました。新穀生産高は、特にイリノイ豊作で42.69億Buと前月から6800万Bu引き上げられましたが、ロイター予想平均42.86億Buを下回りました。世界需給でも旧穀新穀期末在庫ともに大幅に引き上げられ弱材料。
- 10/5の平均輸出価格は、米国ガルフが387.5ドル/トン、ブラジルパラナグアが383.3ドル/トンと先月末から、米国産の下ザヤから上ザヤに変化してきており、米国産の割安感がなくなっています。
- 東京一般大豆先限は、10月はじめは反発局面となりましたが、予想以上の豊作、10/5首吊り線出現で再度売り出発、下値探りとなりそうです。

一般大豆先限日足



トレンドラインなどには執筆者の主観がはいっていますのでご注意ください。

商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員
経済産業省 平成22・12・22商第6号
農林水産省指令22総合第1351号

・お客様相談窓口

大阪本社管理部

TEL:0120-346-492

東京統括店管理部

TEL:0120-182-461

・商品先物取引苦情相談センター

日本商品先物取引協会(東京)

TEL:03-3664-6243

- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高155,000円、最低9,000円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約8倍から約60倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によっても異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成28年10月3日現在)